

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-151	12-315	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
The effects of energy drink in combination with alcohol on performance and subjective awareness. アルコールと一緒に飲むエネルギードリンクの行動能力と主観的な認識に及ぼす効果		
執筆者		
Alford C, Hamilton-Morris J, Verster JC.		
掲載誌		
Psychopharmacology (Berl). 2012 Aug;222(3):519-32. doi:		
キーワード		
栄養ドリンク、主観的中毒症状、カフェイン、行動機能		
要 旨		
目的： 正当性：本研究は、アルコールと栄養ドリンクの同時投与の主観的な中毒症状と客観的行動能力に対する効果を研究した。目的本研究は 2 つのアルコール用量でアルコール対プラセボの主観的そして客観的な作用を評価することを目的とする。アルコール単独、あるいはバランスのある順序で栄養ドリンクと一緒に飲用し、プラセボ対照二重盲検試験を行う。		
方法： 10 人の健康ボランティア (平均+SD ; 24+6.5 歳) の 2 つの群が本研究に参加した。1 群は 80mg カフェインを含む栄養ドリンクを飲み、他はプラセボ飲物を飲用した。そして、両群は 2 用量のアルコールを摂取した (呼気探知器でアルコール濃度 0.046 と 0.087%)。調査項目には、呼気アルコール濃度、客観的な行動機能 (作用時間、単語記憶とストループ課題)、主観的視覚的アナログ気分尺度が含まれた。		
結果： 参加者は非飲酒状態に比較し飲酒後に反応時間が有意に低下し、記憶も低下した。高容量アルコールでは記憶低下がより顕著であった。ストループの成績は、プラセボ飲物+アルコールの組合せと比較し、栄養ドリンク+アルコールの組合せで改善した。参加者は、非飲酒時と比較して飲酒後に有意な用量に関連する主観的機能障害を感じた。アルコールと同時に飲んだ栄養ドリンクとプラセボ栄養ドリンクは呼吸アルコール濃度にも主観的評価にも有意な差を示さなかった。		
結論： 主観的な効果は、アルコール用量依存性にアルコール中毒と感度の認識を反映した。飲酒と同時に飲んだ栄養ドリンクはプラセボ群との間に主観的な尺度の相違をもたらさなかった。飲酒時の栄養ドリンクはどちらの用量のアルコールも、アルコールの主観的な効果を打ち消すという証拠はなかった。		